

# 原田治展

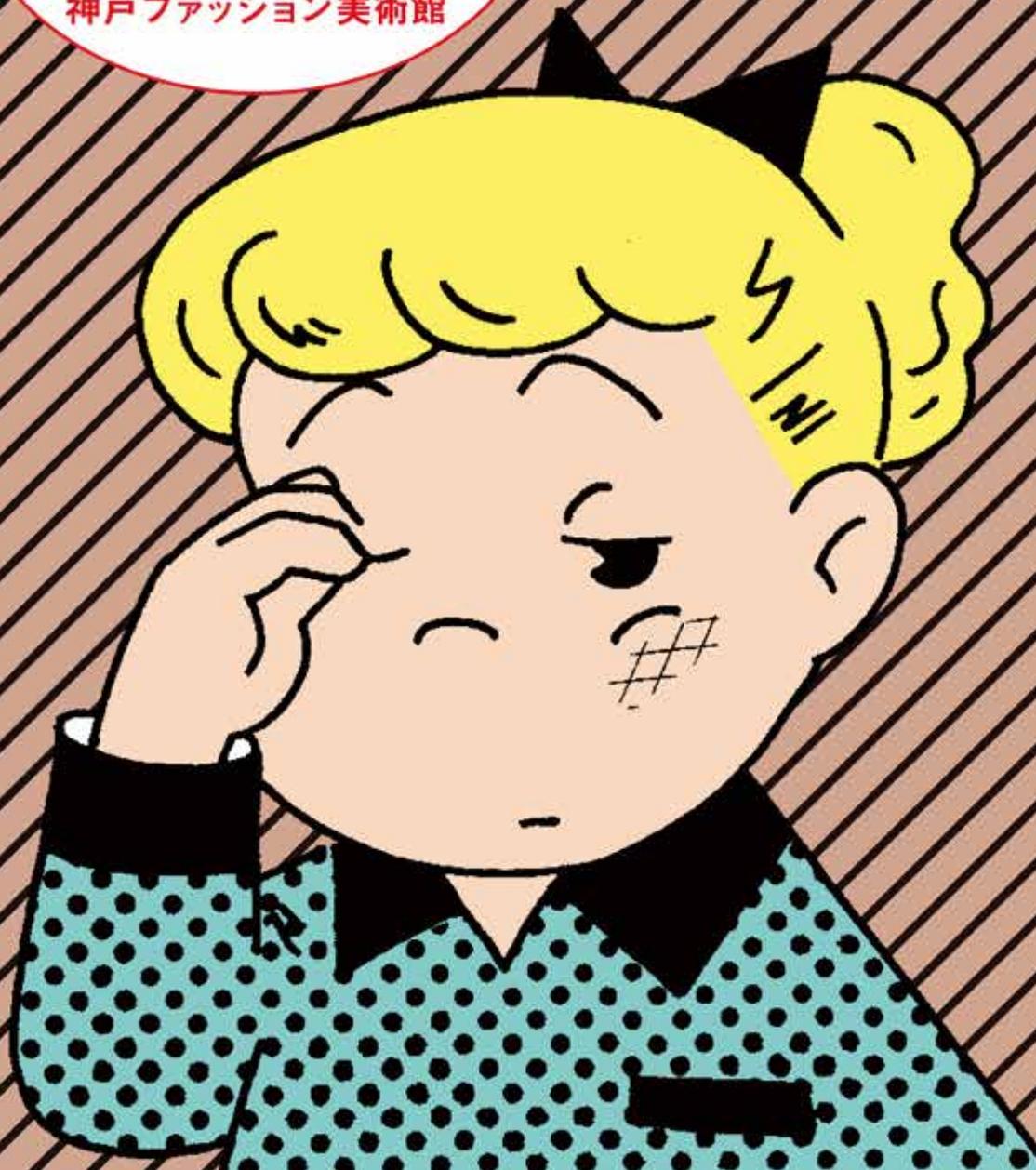
「かわいい」の発見

Osamu Harada: Finding "KAWAII"

2021 7/3(土) - 8/29(日)

※新型コロナウイルスの影響で変更の場合があります  
10:00-18:00(入館は17:30まで)  
休館日:月曜日、8/10(ただし8/9は開館)

神戸ファッション美術館



OSAMU  
HARADA

観覧料: 一般 1,000(800)円、大学生・65歳以上 500(400)円、高校生以下無料 ※神戸市内在住の65歳以上の方は無料  
※カッコ内は有料入館者30人以上の団体料金 ※小学生以下は保護者(大学生以上)の同伴が必要 ※神戸ゆかりの美術館、小磯  
記念美術館の当日入館券(半券)で割引 主催: 神戸ファッション美術館、神戸新聞社、毎日新聞社 後援: サンテレビジョン、  
ラジオ関西 協力: コーギー本舗、トムズボックス、パレットクラブ、design studio paperweight 展示協力: 大阪樟蔭女子大学  
企画協力: 世田谷文学館 企画制作: コスモマーチャンダイズィング 会場設計: 五十嵐増衣 アートディレクション: 服部一成

**K** 神戸ファッション美術館  
KOBE FASHION MUSEUM  
<https://www.fashionmuseum.or.jp/>

## 特別展 原田治展「かわいい」の発見

2021.07.03(土) ▶ 08.29(日)

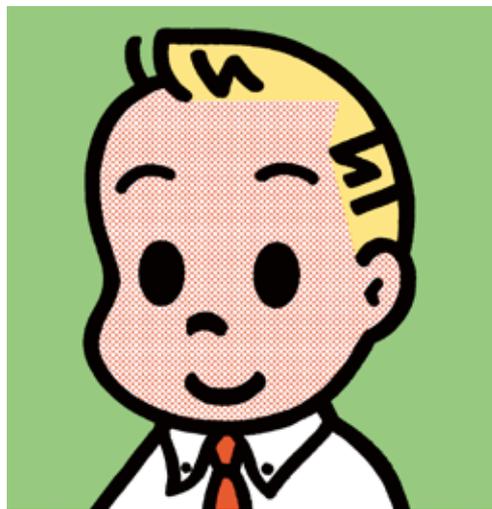
## 企画概要

## OSAMU GOODSよ永遠に

1970年代後半から90年代にかけて、女子中高生を中心に爆発的な人気を博した「OSAMU GOODS（オサムグッズ）」の生みの親、原田治（1946-2016）。

50-60年代のアメリカのコミックやTVアニメ、ポップアートなどから影響を受けたイラストレーションーとりわけ、簡潔な描線と爽やかな色彩で描かれたキャラクターたちは、その後の日本の“かわいい”文化に多大な影響を与えました。

没後初の全国巡回展のひとつである本展では、イラストレーターとして活動するきっかけとなった、1970年代、雑誌「an・an」の仕事をはじめとして、広告・出版・各種グッズなど多分野にわたる作品を中心に、幼少期～20代前半の初期資料や、エッセイ集『ぼくの美術帖』関連資料も交えて展示し、時代を超えて愛される、原田治の全貌に迫ります。



©OSAMU HARADA/KOJI HONPO

展示ゾーン  
構成(予定)

## ZONE 1

## History

イラストレーターデビューまで

## ZONE 2

## Works

雑誌や装幀、広告など原田治の仕事

## ZONE 3

## Joy

イラストレーターとしての顔とは違う  
原田の作品や創作背景

## ZONE 4

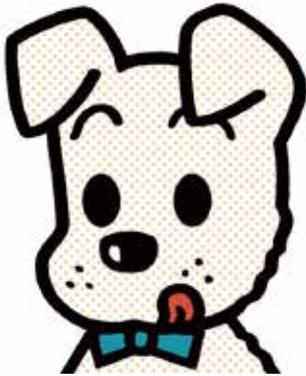
## Dusty Miller

OSAMU GOODSのキャラクター達

原田 治  
(1946 - 2016)

東京生まれ。多摩美術大学デザイン科卒業。1970年、当時創刊された「an・an」でイラストレーターとしてデビュー。1976年、「マザーグース」を題材にしたオリジナルのキャラクターグッズ、「OSAMU GOODS」の制作を開始、女子中高生の間で大人気となる。1984年、ミスタードーナツのプレミアム(景品)にイラストを提供、以降シリーズ化され一世を風靡する。1997年、イラストレーターを養成する「パレットクラブスクール」を、生まれ育った築地に開設。主な著書に『ぼくの美術帖』他。

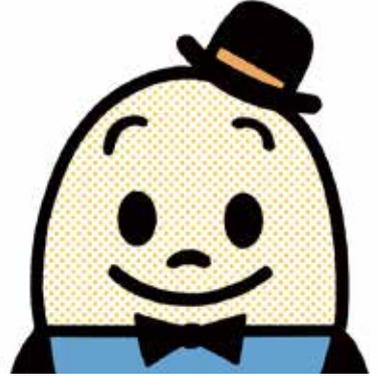
主な  
展示作品  
(予定)



©OSAMU HARADA/KOJI HONPO



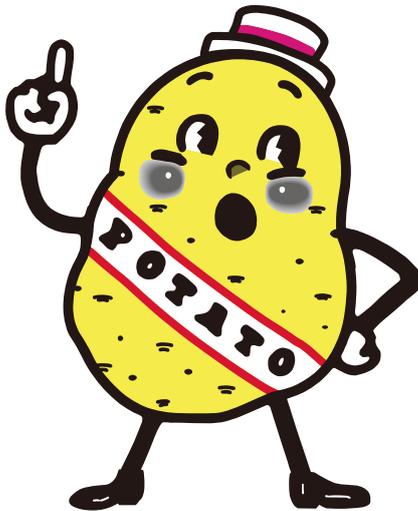
©OSAMU HARADA/KOJI HONPO



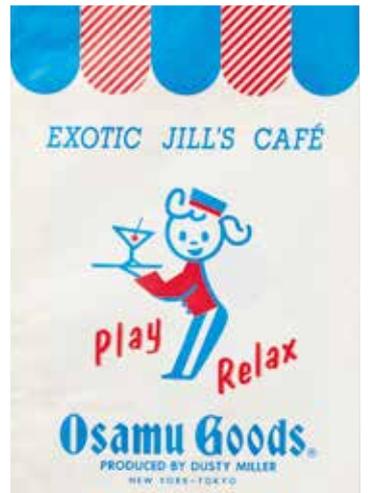
©OSAMU HARADA/KOJI HONPO



©OSAMU HARADA/KOJI HONPO



カルビー「ポテトチップス」など  
マスコットキャラクター  
1976年 作：原田治

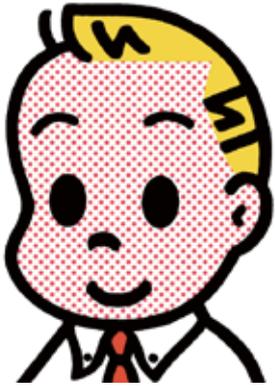


ショップバッグ vol.47  
(OSAMU GOODS®) 1989年  
©Osamu Harada / Koji Honpo



「かわいい」がズラリ！

「原田治展」開催中、OSAMU GOODS ショップが館内に！



© OSAMU HARADA/KOJI HONPO



ミスタードーナツ  
キャンペーン用キャラクター  
1986年



HUMPTY DUMPTY  
(OSAMU GOODS 用原画)  
1970年代後半 - 1980年代前半



スクールバッグ (OSAMU GOODS®)  
1992年 © Osamu Harada / Koji Honpo



浅田彰「逃走論」  
1984年 筑摩書房 装幀：原田治



「an·an」第47号 1972年 平凡出版  
アートディレクション：堀内誠一  
表紙イラストレーション：原田治



## 入館にあたってのお願い

入館時の体温測定にご協力ください

咳、発熱など体調不良の症状がある方は、  
ご入館をお断りすることがあります

マスクの着用をお願いいたします

咳エチケットをお守りください

手指消毒にご協力ください

館内ではお静かにご鑑賞ください

近くの方とできるだけ間隔をおいて  
ご鑑賞ください

感染予防・拡散防止のため、  
館内スタッフはマスクを着用しています

ご理解とご協力をお願いいたします

## 同時開催

# ドレスコレクション展:「スポーツの祭展<sup>さいてん</sup>@神戸ファッション美術館」

目的やスタイルは違って、人々は身体を動かしてスポーツを楽しみ、時代によって身につけた服装は変化してきました。神戸ファッション美術館は所蔵作品を通して、独自の視点からの卓球や水泳など6種目のスポーツとファッションの関係を楽しむ展示を開催いたします。

19世紀半ばまでスポーツは、西洋における上流階級の遊びとして、また社交の場として捉えられていました。スポーツの祭展では、社交の場としての卓球の場面を再現。西洋のドレスを纏って楽しむご婦人たちの姿をご覧ください。一方で産業革命以後、鉄道などの交通機関の発達が市民生活を変化させ、上流階級だけではなく庶民もレジャーとして楽しむようになります。水泳は海水浴として始まり、泳ぐというよりは浜辺で身体を海水に浸すといった、療養とレジャーを兼ねていました。本展では、1890年頃の着着をご紹介します。

いうまでもなく、競技としての一面もあります。2002年に日韓で同時開催されたサッカーワールドカップのユニフォームもあります。その他にも、バドミントン、馬術、ゴルフも取り上げ、18世紀からの西洋のドレス、写真、ファッションプレートなど多彩な展示で見どころ満載です。



版画集『ル・ボン・ジャンル』  
No.11より、1931年



シュミーズ・ドレス  
1800 - 05年頃



水着  
Jantzen, 1923年



ジョッパーズパンツ  
「恐れと狂気」  
永澤陽一、2008年

## 特別展

# 原田治展「かわいい」の発見 2021年 7/3(土)～8/29(日)

開館時間 10:00～18:00 (入館は17:30 まで)  
休館日 月曜日、8月10日(ただし8月9日は開館)  
新型コロナウイルスの影響で変更の場合があります  
入館料 一般 1,000円(800円)  
65歳以上・大学生 500円(400円)  
高校生以下無料

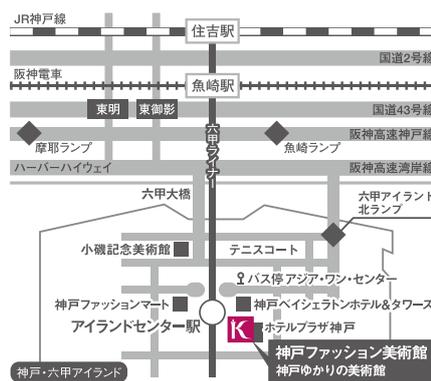
- ※ 神戸市内在住の65歳以上の方は無料です。
- ※ カッコ内は有料入館者30名以上の割引料金です。
- ※ 小学生以下は保護者(大学生以上)の同伴が必要です。
- ※ 神戸ゆかりの美術館、小磯記念美術館の当日入場券(半券)をお持ちの方は割引が受けられます。

主催：神戸ファッション美術館、神戸新聞社、毎日新聞社  
後援：サンテレビジョン、ラジオ関西  
協力：コージー本舗、トムズボックス、パレットクラブ、design studio paperweight  
展示協力：大阪樟蔭女子大学  
企画協力：世田谷文学館  
企画制作：コスモマーチャンダイズィング  
会場設計：五十嵐瑠衣  
アートディレクション：服部一成

〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中 2-9-1  
<https://www.fashionmuseum.or.jp>



お問い合わせ(広報担当)  
TEL: 078-858-0050  
FAX: 078-858-0058  
Email: [press@fashionmuseum.or.jp](mailto:press@fashionmuseum.or.jp)



### 電車ご利用の場合

JR「住吉駅」・阪神「魚崎駅」で六甲ライナーに乗換、「アイランドセンター駅」下車 南東徒歩3分

### お車ご利用の場合

阪神高速神戸線「摩耶」・「魚崎」ランプから約10分  
阪神高速湾岸線「六甲アイランド北」ランプから約2分  
三宮からハーバーハイウェイ経由約15分

※ 駐車場は、当館地下の神戸ファッションプラザ駐車場のご利用が便利です。(利用料金: 20分100円・1日最大550円)